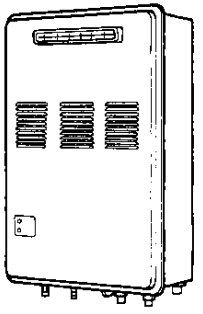
ガス給湯暖房機

型式名　YG1603R　YG1603RG
YG1603RQ　YG1603RM
YG1603RU



取扱説明書

ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。なお、ご不明な点があればお買い求めの販売店にお問い合わせください。

94.2.500(OC)㊫

ごあいさつ

このたびは、ガス給湯暖房機を
お求めいただきまして、
まことにありがとうございます。

別添の保証書とともに、この「取扱説明書」
を大切に保管してください。

もくじ

- 特長・機能のご紹介 …… 1
- 必ずお守りください …… 2・3・4
- 各部のなまえと扱いかた …… 5
- 使いかた
  - 操作前の準備と確認 …… 6
  - お湯の出しかた・止めかた …… 7
  - 暖房の使いかた・止めかた …… 8・9
- 凍結予防のしかた …… 10・11
- 点検・お手入れ …… 12
- 故障かな?と思ったら …… 13・14
- 寸法図 …… 15
- 仕様 …… 16
- アフターサービス …… 17

特長・機能のご紹介

●冬場でもうれしい 安定出湯・安定湯温

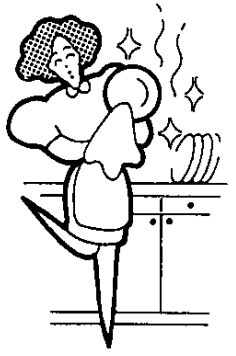
比例制御のはたらきにより、水圧変動に対しても安定した湯温が得られます。

●部屋の空気を汚さない クリーン暖房

暖房は、温水を使用しますので、お部屋の空気を汚すことなくクリーンな暖房が得られます。

●給湯も、暖房も 簡単操作で自動運転

給湯は給湯栓を開くだけ、暖房はお部屋の放熱器の運転スイッチを入れるだけの簡単な操作で自動的に運転をはじめます。



必ずお守りください

❶設置・工事される前に

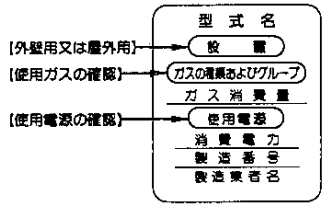
使用ガスの確認

❶銘板に表示してあるガスの種類およびガスグループ以外では、使用しないでください。
❷銘板はフロントカバー下部に貼っています。
❸銘板に表示してあるガスと、設置先の使用ガスが一致していることをご確認ください。

使用電源の確認

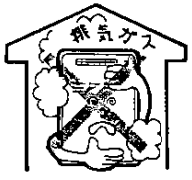
熱源機はAC100V用です。銘板に表示してある電源と一致しているか確かめてください。

（銘板）



❷取付場所について

●壁、その他の可燃物から十分離れている場所で使用してください。
●屋外設置型は、屋内には絶対取付けないでください。
排気ガスが充満して危険です。



また、屋内設置型は、屋内専用機器です。屋外には絶対取付けないでください。

❸本器の用途について

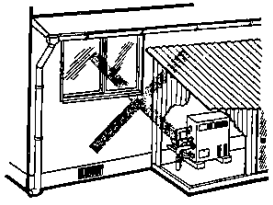
●給湯と暖房がおのおの独立してお使いいただけます。
これ以外の用途には使用しないでください。

❹補助用具について

●この熱源機の標準付属品・指定の別売部品以外は使用しないでください。不完全燃焼などの原因になります。

❺設置・工事について

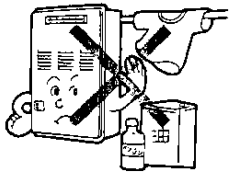
●この熱源機の据えつけには設置・工事が必要です。お買上げの販売店、またはガス会社に依頼し、安全な場所に正しく設置してください。
●屋外設置の場合、増改築などによって屋内状態にしないでください。また、波板などによって囲いなどもしないでください。



ガス漏れ・やけど・火災・故障などを防ぐために

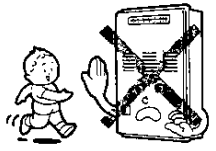
❻火災予防について

●熱源機の上や周囲に燃えやすいものを置かないでください。



❼やけどの注意

❶使用中、または使用直後しばらくは排気口やその周囲があつくなっていますので、熱源機にはふれないでください。
❷2箇所で同時使用されますと、ぬるくなったり、湯量や湯温がかわる場合があります。シャワー使用中は、特に注意してください。
❸シャワーなど使用後すぐに再度お使いになるときは、手で湯温を確認してからお使いください。（一瞬熱いお湯が出ることがありますのでご注意ください。）

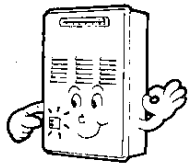


❽凍結予防について

●冬期は、寒冷地だけでなく、暖かい地方でも急な寒波のため熱源機および配管内の水が凍って、熱源機や配管を破損する場合があります。
★詳しくは10、11ページをお読みください。

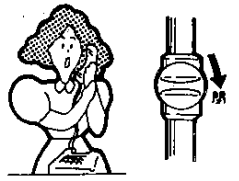
❾熱源機のランプ確認

●使用中の点火、使用後の消火が正しく行われているかときどき熱源機のランプ（運転中は赤色点灯、消火時は消灯）を確かめてください。



❿ガス事故防止

❶お使いにならないときや、長期間お出かけになるときは、ガス栓を必ず閉めてください。



❷ガス漏れに気づいたときは、すぐ使用をやめてガス栓を閉め、お買求めの販売店、またはガス会社にご連絡ください。
❸万一ガスが漏れたときは、絶対に火をつけたり、換気扇その他電気器具に触れたり（スイッチの入、切や電源プラグの抜き差しなど）しないでください。

長期間使用しない場合

●ガス栓を閉じ、水抜きを行ってください。
(11ページ参照)

点検・お手入れ

●点検・お手入れは、必ず行ってください。

★詳しくは12ページをお読みください。

たまった水は飲まないで

●熱源機内に長時間たまっていた水は、飲用または調理に用いないでください。

使用中の異常について

●使用中にふだんと違った状態になったときや、地震・火災などの場合には①電源プラグを抜く②ガス栓を閉めるなどの処置をしてください。

排水処理について

●他に支障のない所へ排水処理をしてください。

暖房使用時

停電時

●運転は停止します。再通電すると運転を再開(放熱器により異なります。)しますが、停電中は念のため放熱器の運転スイッチを「切」にしてください。

断水時

●そのまま使用できます。

ガスの供給が停止した時

●運転は停止します。ガスの供給が再開されても運転はしません。いったん放熱器の運転スイッチを「切」にし、ガスの供給が再開された後、放熱器の運転スイッチを入れてください。

給湯使用時

停電時

●運転は停止しますが、水はそのまま出ますので、給湯栓を閉めてください。
再通電すると給湯栓を開けるだけで使用できます。

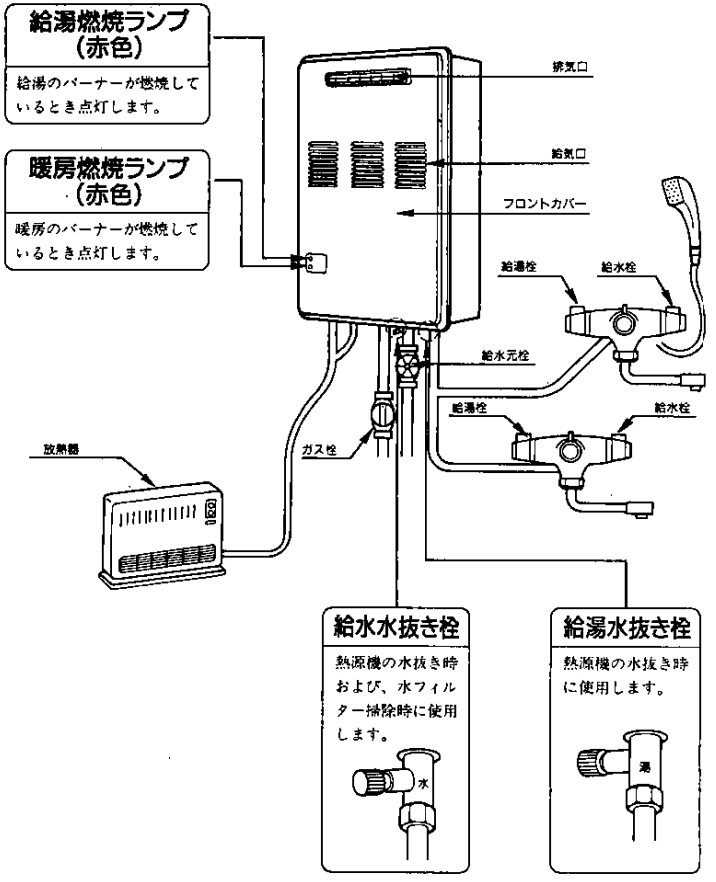
断水時

●運転は停止しますが、再通水すると自動的に点火しますので、給湯栓は閉めてください。

ガスの供給が停止した時

●運転は停止します。ガスの供給が再開されても運転はしません。ガスの供給が再開されるまで給湯栓を閉めてください。

各部のなまえと扱いかた

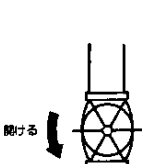


使いかた　操作前の準備と確認

●操作前の準備と確認

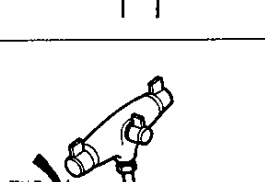
1 給水元栓を全開にする

● 熱源機下部 の給水元栓を全開にしてください。



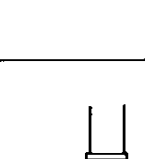
2 給湯栓を開け、水の出ることを確認後、閉める。

● お湯の使用場所 の給湯栓を開け、水の出ることを確認してから閉めてください。



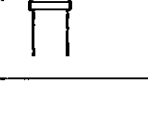
3 ガス栓を全開にする

● 熱源機下部 のガス栓を全開にしてください。



4 熱源機用ブレーカを「入」にする

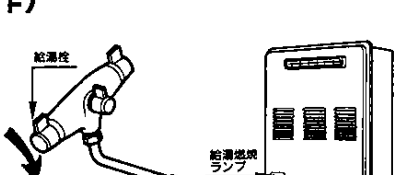
● 屋内の分電盤 の熱源機用のブレーカを「入」にしてください。



●お湯の出しかた(点火操作)

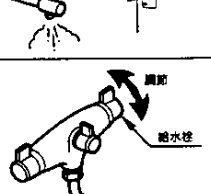
1 給湯栓を開ける

● 点火し、給湯燃焼ランプが 赤色 に点灯します。
※出湯した直後には少し熱いお湯が出ることがありますので、出はじめのお湯には手を触れないでください。



2 温度調節する

● 熱源機は60℃の湯が出るよう調節してあります。
給湯栓・給水栓 でお好みの温度に調節してください。



● 2箇所使用するときは湯温の変化に気をつけて

2箇所で同時使用されますと、ぬるくなったり、湯温が少なくなったり、湯温が変化することがあります。シャワー使用中はとくにご注意ください。

シャワーを使用する前には湯温を確かめてください。

●お湯の止めかた(消火操作)

3 給湯栓・給水栓を閉める

● 消火し、給湯燃焼ランプが 消灯 します。
※ご使用にならないときや、長期間お出かけの際には、ガス栓を閉めてください。

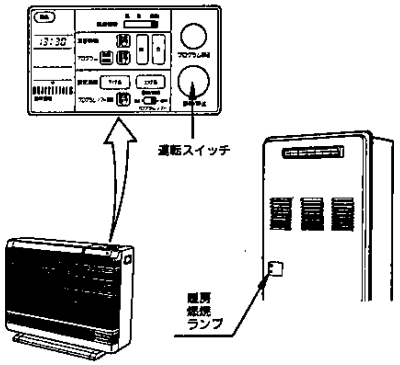
❻暖房の使いかた

1 運転

放熱器の場合

●運転スイッチを入れる。
・暖房を開始します。
・燃焼中は熱源機の暖房燃焼ランプ(赤色)が点灯します。

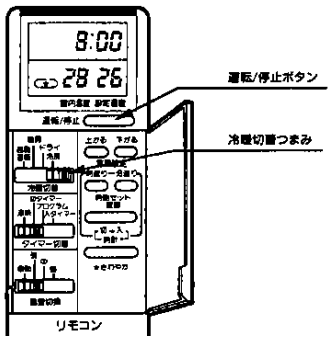
＊放熱器には、いろいろ種類があります。
それぞれの説明書に従って操作してください。

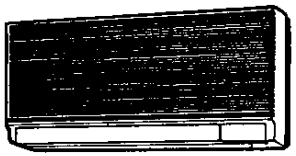


エアコン暖房運転の場合

❶リモコンの冷暖切替つまみを「暖房」にする。
❷リモコンの「運転/停止ボタン」を押します。
・エアコン室内機の運転ランプが点灯します。

＊エアコン室内機には、いろいろ種類があります。
それぞれの説明書に従って操作してください。

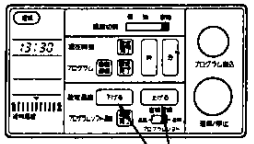




2 温度を調節する

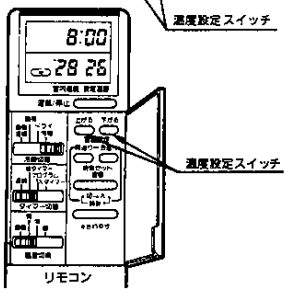
放熱器の場合

・放熱器の温度設定スイッチで調節。



エアコンの場合

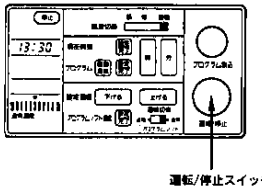
・リモコンの温度設定スイッチで調節。



3 暖房の止めかた

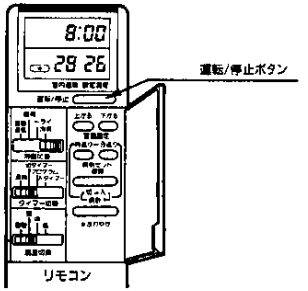
放熱器の場合

●放熱器の運転スイッチを「切」にする。
・運転を停止し、放熱器の運転ランプが消灯します。



エアコンの場合

●リモコンの「運転/停止ボタン」を押します。
・運転を停止し、エアコンの運転ランプが消灯します。



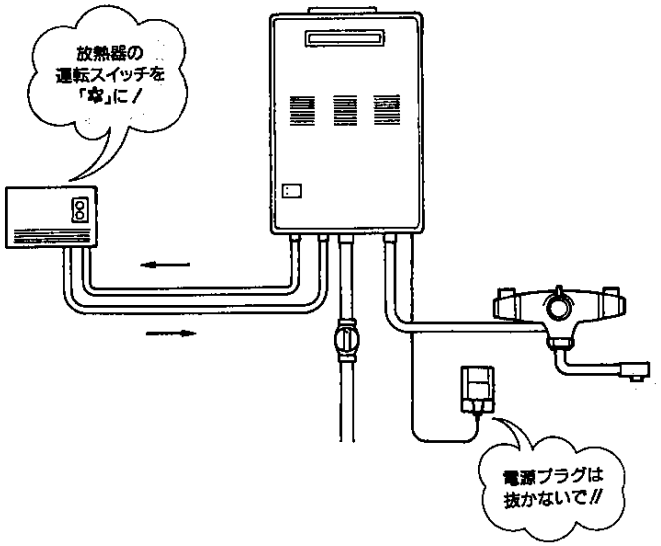
凍結予防のしかた

●寒波がきたら凍結に注意（電源プラグは抜かないで）

冬期は急な寒波のために、熱源機および給湯・暖房配管内の水が凍結し、破損する場合があります。熱源機の凍結予防運転のため、電源プラグは抜かないでください。

●凍結予防操作は給湯側と暖房側の両方必要

この熱源機は、給湯用と暖房用の2つの熱交換器を内蔵しています。
凍結予防操作は給湯側・暖房側の両方で行ってください。

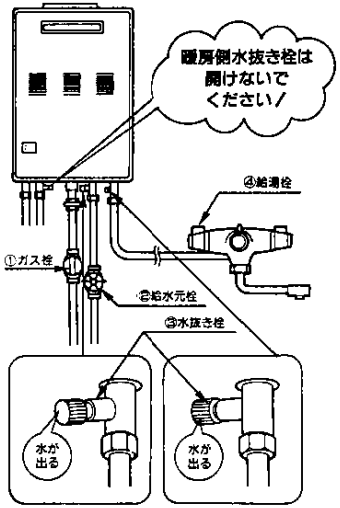


通常は凍結予防ヒーターが作動し、凍結予防運転を行います。

ご注意

●凍結したときは、とけるのを待ってから（7ページ）の「お湯の出しかた・止めかた」により ①水の出ること ②水漏れのないこと ③作動に異常のないことを確かめてからご使用ください。熱源機や配管が破損しますと、高額の修理費用がかかる場合があります。（有料）

●水抜きのしかた（給湯側）



●通常は凍結予防ヒーターが作動し凍結予防運転を行います。
●長期不在の場合や異常低温注意報が出た場合、念のため下記の手順で水抜きをしてください。

❶ガス栓を閉める。
❷給水元栓を閉める。
❸水抜き栓を開ける（2ヶ所）。
❹すべての給湯栓を全開にする。

※❸水抜き栓と、❹給湯栓から水が抜けるのを確かめてください。
※次にお使いになるまで、このままにしておいてください。

●再びご使用になるときは、水抜き栓（2ヶ所）をしっかり閉めて、（6ページ）の「操作前の準備と確認」の処置を行ってください。
※給湯配管の経路によっては、ここに示す「水抜きのしかた」通りの処置を行っても配管内に水が残ることがあります。
その場合は末端給湯栓から水を流し続ける等の予防処置をとってください。

●凍結予防のしかた（暖房側）

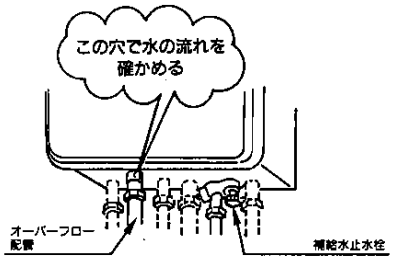
●放熱器の運転スイッチを「凍結予防」に合せる。

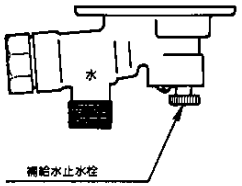
※放熱器は、種類によって凍結予防運転の方法が異なるため、それぞれの説明書をお読みください。
※暖房側の凍結予防に不凍液を使用している場合は、適性濃度を保つため、1年に1度点検が必要です。
不凍液のメンテナンス方法については、お買上げの販売店、またはガス会社へお問い合せください。

点検・お手入れ

点　検

❶ガス臭くはありませんか？
❷水漏れはありませんか？
●暖房運転をしていないのにオーバーフロー配管から水が連続して流れて止まらないときは、補給水止水栓を右へいっぱいにまわして止水し、メンテナンスを依頼してください。





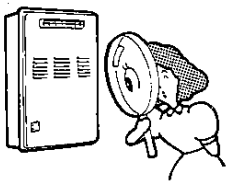
❸異常音や排気に不快な臭いはありませんか？
❹熱源機のまわりに燃えやすいものはありませんか？

お手入れ

●熱源機の表面の汚れは、やわらかい布に台所用中性洗剤をつけてふきとってください。

定期点検のおすすめ

●ご使用上支障がない場合でも、故障や事故を予防し、安心してより良くご使用いただくために、年１回程度の定期点検をおすすめします。
●本製品は、一般家庭用の製品です。
業務用にご使用の場合は熱源機を正常にお使いいただくために、定期点検(年2回程度)をお受けください。(有償)
詳しくは、お買求めの販売店、またはガス会社へご相談ください。



ご注意
●安全に長くご使用いただくために点検、お手入れを必ず行ってください。
●点検・お手入れの際にはガス栓、給水元栓を閉じて、熱源機が十分冷えてから行ってください。

故障かな?と思ったら

給　湯

燃焼ランプが消えた後も、約7分間は送風機がまわります。これは再使用時の点火をより早くするためで異常ではありません。	水の中の空気が分離して、気ぼうとなり、お湯が白くなることがありますが、空気ですので何ら心配はありません。
冬期水温が低くなりますと、湯量が多い場合には、あつい湯が出ないことがあります。このような場合には、湯量を絞ってお使いください。	2ヵ所で同時使用されますと、湯温が変化したり、湯量が少なくなることがあります。特にシャワー使用中の同時使用はやめてください。
給湯栓は絞りすぎないでください。給湯栓を絞りすぎますと、消火して水になります。	給湯栓（特にシングルレバー式）は急に閉めると、音がすることがあります。これは水撃作用(ウォーターハンマー)によるもので故障ではありません。

暖　房

室温が高い場合には、暖房運転スイッチを「入」にしても暖房燃焼ランプ(赤色)が点灯しない場合があります。
気温が低いときは、自動的にポンプがまわりますが、凍結を予防するためで異常ではありません。
暖房シーズンオフ時に、給湯をお使いになると、温水循環用ポンプが約10秒運転することがありますが、ポンプの固着予防のためで異常ではありません。

●過圧防止安全装置について

給湯栓を閉じた直後、一時的に給湯水抜き栓から水がポタポタ出ることがありますが、機器内部の圧力をさげるためで異常ではありません。
ただし空だき安全装置が働いたときは、高温の蒸気が噴出しますのでやけどには充分注意してください。

故障かな?と思ったら②

故障かな?と思われたらただちに使用を中止し、
一度つぎのことをお調べください。

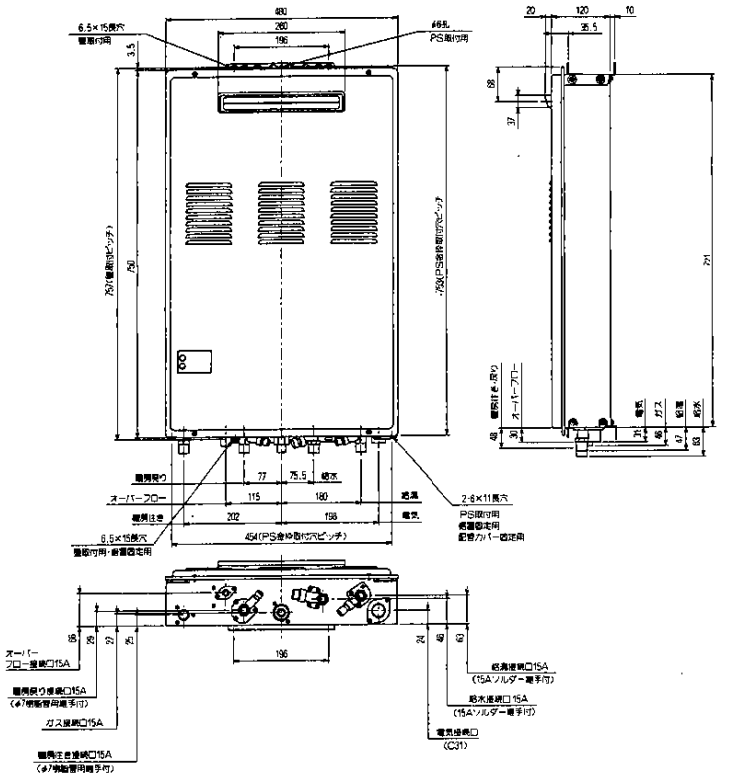
こんなとき（現象） / 調べていただくこと（原因）		運転中に排気口から湯気が出る	給湯栓を開けても湯が出ない	あつい湯が出ない	途中で水になる	湯温が変化する	給湯燃焼ランプが点滅する	暖房燃焼ランプが点滅する	暖房燃焼ランプが点灯しない	暖房ができない、またはきそがおそい	処置方法	参照ページ
電源プラグが外れている		異常ではありません	●						●	●	コンセントに差し込む	6
ガス栓が閉っている			●				●	●		●	開ける	6
配管内に空気が残っている			●				●	●		●	点火操作を繰り返す	7・8・9
給水元栓が閉っている			●								開ける	6
水圧が適切でない	低い		●		●	●					点検を依頼する（他に原因がないとき）	−
凍結している			●								解凍するまで使用を中止する	10・11
混合水栓の目づまり・サーモ付混合水栓の温度不良			●	●	●	●					点検を依頼する	−
給湯栓の絞りすぎ			●		●	●					開ける	7
能力オーバーしている				●							給湯栓を絞る	13
安全装置が作動した			●		●		●	●	●	●	再操作しても動かないときは点検を依頼する	−
放熱器の故障									●	●	点検を依頼する	−
ポンプの故障										●	点検を依頼する	−
水フィルターの詰り				●	●	●	●				点検を依頼する	−

- このほかに異常があるときや、おわかりにならないときは、お買求めの販売店、またはガス会社へご連絡ください。
- 修理は絶対にお客さまご自身でなさらないでください。不完全な処置は事故のもとになります。

寸法図

YG1603R型

（単位：mm）



仕様

品名		ガス給湯暖房機				
型式名		YG1603R	YG1603RG	YG1603RQ	YG1603RM	YG1603RU
設置方式		屋外設置				
		PS標準設置形	屋内設置形	屋内前方排気延長形	屋内後方排気延長形	壁組込設置形
外径寸法		高さ750mm×幅480mm×奥行120mm				
重量		26kg				
給湯最低作動水量		2.5ℓ/min				
給湯最低作動水圧		0.15kgf/㎠				
給湯湯温制御		比例制御(16~2号)・湯温60℃または80℃一定				
暖房温水温度制御		約80℃または約80℃、約70℃、約65℃の3段階(アメドラ対応)				
給湯出湯量		10ℓ/min				
点火方式		連続放電点火式				
電源		AC100V・50Hz/60Hz				
消費電力	最大	82W/88W				
	凍結予防作動	135W/141W				
接続	ガス	15A(R1/2)おねじ				
	給水	15A(R1/2)おねじ				
	給湯	15A(R1/2)おねじ				
	暖房	15A(G1/2)おねじ (φ7用樹脂管継手付)				
	オーバーフロー	15A(R1/2)おねじ				
	電気	CTC31おねじ				
別売品		据置台・配管カバー	屋内設置用取付ボックス			

使用ガスグループ		1時間当たりのガス消費量(kcal/h)			標準出力		
		全ガス消費量	給湯	暖房	給湯 (ℓ/min)		暖房
					25℃上昇	40℃上昇	(kcal/h)
都市ガス	13 A	35,000	30,000	5,000	(16)	(10)	4,000
	12 A	32,600	28,000	4,650	(14.9)	(9.3)	3,700
	5 C	29,000	26,000	5,000	(13.9)	(8.7)	4,000
LPガス用		2.92kg/h	2.50kg/h	0.42kg/h	(16)	(10)	4,000

備考・( )内の数値は湯水混合栓で混合した時の流量です。

アフターサービスについて

サービスのお申し込み

●サービス(点検・修理)を依頼される前に

「故障かな？と思ったら」(13ページ)の項を見て、もう一度ご確認ください。
それでも不具合がある場合は、ご自分で修理なさらないでお買求めの販売店、またはガス会社にご連絡ください。

●ご連絡の際には次のことをお知らせください。

1. 製品名……ガス給湯暖房機
2. 商品コード…フロントカバー下部に貼付してあります。
3. 現象……できるだけ詳しく
4. 道順……できるだけ詳しく

転居されるとき

●ガスの種類の異なる地域へ転居される場合

ガスの種類が異なる地域へ転居される場合には、部品の交換や調整が必要となりますので、転居先のガスの種類を確認の上、お買求めの販売店、またはガス会社にご相談ください。
この場合、調整・改造に要する費用は保証期間内でも有料となります。
ただし、ガスの種類や電気の周波数によっては調整できない場合もあります。

保証・補修について

●保証期間中は…

保証書に記載の内容で、熱源機の故障について修理いたします。
保証書を紛失されますと、保証期間中であっても修理費をいただくことがありますので、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

●保証期間経過後の故障修理について

お買求めの販売店、またはガス会社にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
この熱源機の補修用性能部品(機能を維持するために必要な部品)の最低保有期間は、製造打切後10年間です。

お客さまへのご案内

この度は、大阪ガスのガス給湯暖房機をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。
取扱説明書に記載の型式名と、大阪ガスの機器コードの対照について下表の通りご案内申し上げます。

大阪ガス機器コード	型　式　名
44−770	YG1603R
44−771	YG1603RG
44−772	YG1603RQ
44−773	YG1603RM

お客さまからの販売店、または大阪ガスへのこの機器についてのお問い合せは、大阪ガスの機器コードをご連絡いただきますようお願い致します。
（添付の保証書および機器本体下部には、大阪ガス機器コードを明示致しております。）
お客さまには、大阪ガスの給湯暖房システムを快適に末永くご愛顧いただきますようお願い申し上げます。

大阪ガス